(5—立)

5	4	3	2	1
4	4	4	4	4

6	5 Y	5 X	4	3	2	1
4	8	8	4	4	4	4

6	5	4	3	2	1
4	4	4	4	4	4

1
2
2
2
2
2

1
2
2
2
2
2

1

(1) 剥製	はくせい
(2) 苛烈	かれつ
(3) 装丁	そうてい
(4) 殊に	こと（に）
(5) 東奔西走	とうほんせいそう

2

(1) クッシ	屈指
(2) リンリツ	林立
(3) キハツセイ	揮発性
(4) ナ（り）	鳴り
(5) サンシコウコウ	三思後行

3

〔問1〕	〔問2〕	〔問3〕	〔問4〕	〔問5〕	〔問6〕
イ	ア	ウ	イ	エ	ウ

4

〔問1〕	〔問2〕	〔問3〕	〔問4〕	〔問5〕	〔問6〕
ウ	イ	エ	ア	Y X	ウ

5

〔問1〕	〔問2〕	〔問3〕	〔問4〕	〔問5〕
ウ	ウ	エ	ア	エ

（Xの解答例）
イメージや想像力を掻き立てる日常的なことばは、思考の核となり思考を集約・現前化・認識させるという意味で、私たちの思考そのものであるということ。（七一字）

（Yの解答例）
文章Bでは、レポートや論文などを書く際に、文章の形式や表現に束縛されすぎてしまうと文章執筆者自身の思考や言葉をうまく表現できないことがあると考えられている。つまり、言葉は思考そのものを表すべきだと考えているとも言え、文章Aのことばが思考そのものを表す「ことばは思考の肉体である」に近いと言えるから。（一四九字）

150
100
20
75
60
20